

## 山口県における受検～受診～受療に至る効果検証と質向上のための対策 に関する研究

研究分担者 日高 勲 山口大学医学部附属病院 肝疾患センター 助教

### 研究要旨

【背景】現在、国をあげて、効率的な肝炎検査の受検、受診促進の取り組みが行われている。  
【方法】1) 肝炎医療コーディネーターを中心とした受検啓発の効果について、肝炎無料検査受検者数の推移で評価した。2) 肝炎医療コーディネーターに対するアンケート調査を行い、動機や活動への参加意欲の向上につながる課題を抽出した。【結果】1) 山口県では2010年より拠点病院主導で肝炎無料検査受診啓発活動を行ってきた。その後、行政と連携し活動を継続、さらに2015年からは肝炎医療コーディネーター(肝疾患コーディネーター)を中心とした啓発活動を展開している。特定感染症検査等事業における肝炎無料検査受検者数は2014年以降、年々増加していた。2) 2017年度に山口県肝疾患コーディネーター養成講習会に参加した方を対象に、動機や活動についてアンケート調査を行った。講習会参加のきっかけについては上司からの勧めが最も多かったが、同僚からの勧めやコーディネーター活動に興味があるなどといった回答も多かった。認定後の活動についても、院外活動(受検啓発)に参加したいとの回答を多く得られた。【結語】効率的な受検啓発には拠点病院と行政、肝炎医療コーディネーターが協力し、一体となって活動することが重要である。肝炎医療コーディネーターが継続的な活動を行うためには、肝炎医療コーディネーターの認知度の向上が必要である。

### A. 研究目的

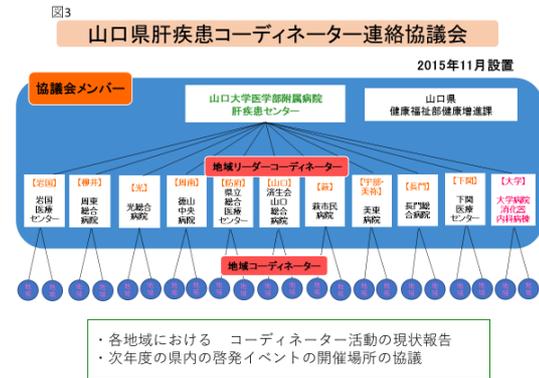
現在、国をあげて、効率的な肝炎検査の受検、受診促進の取り組みが行われている。受検啓発や受診勧奨については各自治体で様々な取り組みが行われているが、肝炎医療コーディネーターの活躍が期待されている。山口県における受検啓発活動には拠点病院と行政が連携して活動を行ってきたが、近年積極的に肝炎医療コーディネーターが啓発活動に参画しており、この効果について検証する。また、肝炎医療コーディネーターにアンケート調査を行い、活動の継続に必要な条件を抽出する。

### B. 研究方法

1) 山口県における肝炎医療コーディネーターを中心とした受検啓発の効果について、啓発活動の時期と肝炎無料検査受検者数の推移で評価した。2) 肝炎医療コーディネーター養成講習会に参加した新規コーディネーターに対し、受講の動機や活動への参加意欲などについてアンケート調査(図1)を行った。アンケートは職種について確認するが、個人情報に配慮し、無記名で行った。



性 345 人の新たな陽性者が発掘された。



### C . 研究結果

1) :山口県では2010年より拠点病院主導で啓発リーフレット(図2)を用いた肝炎ウイルス無料検査受診啓発活動を行ってきた。2012年に山口県においても肝炎医療コーディネーター(山口県肝疾患コーディネーター)の養成が開始され、拠点病院と地域のコーディネーターが協力し、2015年に山口県肝疾患コーディネーター連絡協議会(図3)を設置し、協議会で受検啓発活動について議論するなど、2015年からはコーディネーターを中心とした啓発活動を展開している。さらに2016年からは行政と連携し、受検啓発イベント時に出張無料検診も行っている。

図2



本県にける特定感染症検査等事業における肝炎無料検査受検者数は2012年7746人、2013年7769人、2014年8915人、2015年11129人、2016年12312人と2014年以降年々増加を認めている(図4)。また、この間にHBs抗原陽性293人、HCV抗体陽

図4 肝炎ウイルス無料検査の受検者数の推移と陽性者数

|        | 無料ウイルス検査受検者数 | HCV抗体陽性者 | HBs抗原陽性者 |
|--------|--------------|----------|----------|
| 2011年度 | 9675人        | 90       | 57       |
| 2012年度 | 7746人        | 67       | 38       |
| 2013年度 | 7769人        | 57       | 37       |
| 2014年度 | 8915人        | 68       | 56       |
| 2015年度 | 11129人       | 75       | 69       |
| 2016年度 | 12312人       | 78       | 89       |

2) 本年度新規に山口県肝疾患コーディネーター養成講習会を受講された方を対象にアンケート調査を行った。回答者の職種は保健師5名、看護師23名、薬剤師14名、管理栄養士6名、臨床検査技師10名でMSW2名、その他1名の計61名であった。参加のきっかけ(複数回答可)は「上司からの勧め」32名、「同僚からの勧め」8名、「コーディネーターに興味がある」15名、「活動に興味がある」15名。その他8名であり、養成講習開始初年度から同様のアンケートを実施しているが、同僚からの勧めやコーディネーター活動に興味がある方が増加していることが分かった。また今後の活動意思について自由記載で質問したところ、啓発活動に参加したいとの多くの意見があった(図5)。

図5 肝炎医療コーディネーターアンケート結果



## D. 考察

山口県における肝炎ウイルス検査受検者数は増加傾向にあり、受検啓発活動は重要な取り組みと考える。活動は継続的に実施することが不可欠であり、山口県における活動においては、その中心的な役割を肝炎医療コーディネーターが担っている。山口県肝疾患コーディネーター連絡協議会を設置し、活動について協議、拠点病院の医師および統括コーディネーターが県内の活動の把握を行えていることが継続的かつ発展的な活動ができている要因と推察する。次年度以降は受検啓発だけでなく、受診勧奨についても肝炎医療コーディネーターの関りの有効性を検証していきたい。また、新規肝炎医療コーディネーターを対象としたアンケート調査においては、受講のきっかけとして「上司からの勧め」以上に、「同僚からの勧め」や「コーディネーター活動への興味」が多く、活動や活動の必要性の認知度が高まっていることが推測された。山口県では、肝炎医療コーディネーター養成講習会やフォーアアップ研修会、拠点病院主催の研修会等でコーディネーター活動について講演を行っており、認知度の向上につながっていると考える。今後、肝炎医療コーディネーター養成が新規に行われる都道府県において、同様のアンケートを実施し、比較検討を行いたい。

## E. 結論

効率的な受検啓発には拠点病院と行政、肝炎医療コーディネーターが協力し、一体となって活動することが重要である。肝炎医療コーディネーターが継続的な活動を行うためには、病院内外での肝炎医療コーディネーターの認知度の向上が必要と考える。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

日高 勲、坂井田 功、拠点病院と県、肝炎医療コーディネーターが一体となった肝炎ウイルス検査受検啓発の取り組み、シンポジウム「B型、C型肝炎患者拾い上げの取り組み」、第42回日本肝臓学会西部会、2017年11月、福岡

## G. 知的所有権の取得状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

